

- ◆ 第6分科会 [環境教育] (報告者：副会長 島屋 豊)
 会場 両津文化会館
 研究課題 自然環境を生かす教育への参画
 ～子どもたちの心豊かな未来を求めて～



佐渡汽船 ジェットfoil



文弥人形



会場入り口にて

- 基調講演
 - 講演者 辰野 勇 氏 株式会社モンベル代表取締役会長
 - 演題 子どもたちの豊かな未来への環境教育
～夢と冒険 野遊びのススメ～
- 実践発表
 - 発表者 中村 友子 氏 新潟県佐渡市小中学校PTA連合会副会長
- パネルディスカッション
 - コーディネーター 豊田 光世 氏 国立大学法人新潟大学准教授
 - パネリスト 岡崎 実 氏 新潟県厚生連佐渡総合病院副院長
 - パネリスト 高野 毅 氏 生椿の自然を守る会会長
 - パネリスト 相田 忠明 氏 株式会社佐渡相田ライスファーム代表取締役
 - パネリスト 大呂 延幸 氏 公益社団法人日本PTA全国協議会前理事

新潟県内10会場で開催された分科会のうち、第6分科会は佐渡市にある両津文化会館で開催されました。数日前から北上する台風19号、20号からの強風の影響で「佐渡へ渡れないのでは」とハラハラしながら新潟へ向かいましたが、新潟大会の実行委員会の方々の熱い思いで波も穏やかになり、新潟港よりジェットfoilで両津港へ渡ることができました。シャトルバスで会場に向かうと、曲がり角毎に多くの実行委員の方々が手を振ってくださっており、また会場前の両津公民館では佐渡の伝統芸能「文弥人形」を高千中学校の生徒が上演してくれるなど、地元の方々の熱烈な歓迎を身にしみて感じながら会場入りしました。

歓迎アトラクションでは、設立94周年を迎える立浪会の「佐渡おけさ」と両津吉井小学校の児童による勇壮な「鬼太鼓」が披露されました。特に「鬼太鼓」は佐渡の伝統芸能であり「地域の子供は地域で育てる」を合言葉に「ふるさと学」の時間を用いて練習しているそうで、舞い終わった後、一生懸命インタビューに答えている児童のちょっと緊張気味の笑顔が印象的でした。

基調講演は、高校時代の国語の教科書の「白い蜘蛛」に感銘を受け山一筋であった青春時代の冒険話や、山に関わる仕事に就きたいという「夢」を実現させモンベルを設立した話など社会人としての自分にとって、興味深い講演でした。その中で、実体験から身につけた大切な力は「集中力」「持続力」「判断力」であり、さらに「決断力」が生きていくうえで最も重要であると述べられました。モンベルにも7つの決断があり、その都度困難な方を選ばれてきたそうで、「なるほどな」と感心させられました。

実践発表では、佐渡の伝統や文化の継承を学校・家庭・地域がつながりを強化し、三者が一体となって取り組まれている3校の実践が発表されました。佐渡への「誇り」や「郷土愛」を育む中で新たな学びやコミュニケーションが生まれ、地域の活性化にもつながっているそうです。

パネルディスカッションでは、現代の子ども達を取り巻く環境についてとても参考になるいろいろな思いを聞くことができました。

- ・本当に現代の子どもが変わったのか？子どもを取り巻く大人や環境が変わったのではないかな？
- ・昭和世代の親と平成世代の子。でも親は平成時代をしっかりと生きている。
- ・子供が「決断」する前に親が口出ししてしまう時代。

いろいろなリスクは排除し、そして子どもを信じて、「見守る」「まかせる」、そして子どもたちの冒険心や好奇心を育て「実体験」をさせてあげ、「夢」の実現につなげていく環境づくりが現代の我々親に求められているのかなと改めて考えさせられました。

今回、全国大会に参加する機会を頂き人生初の佐渡に行くこともできましたし、貴重なご意見やお話を直接聞くことができ、私自身にとっても有意義な「実体験」となりました。ありがとうございました。